

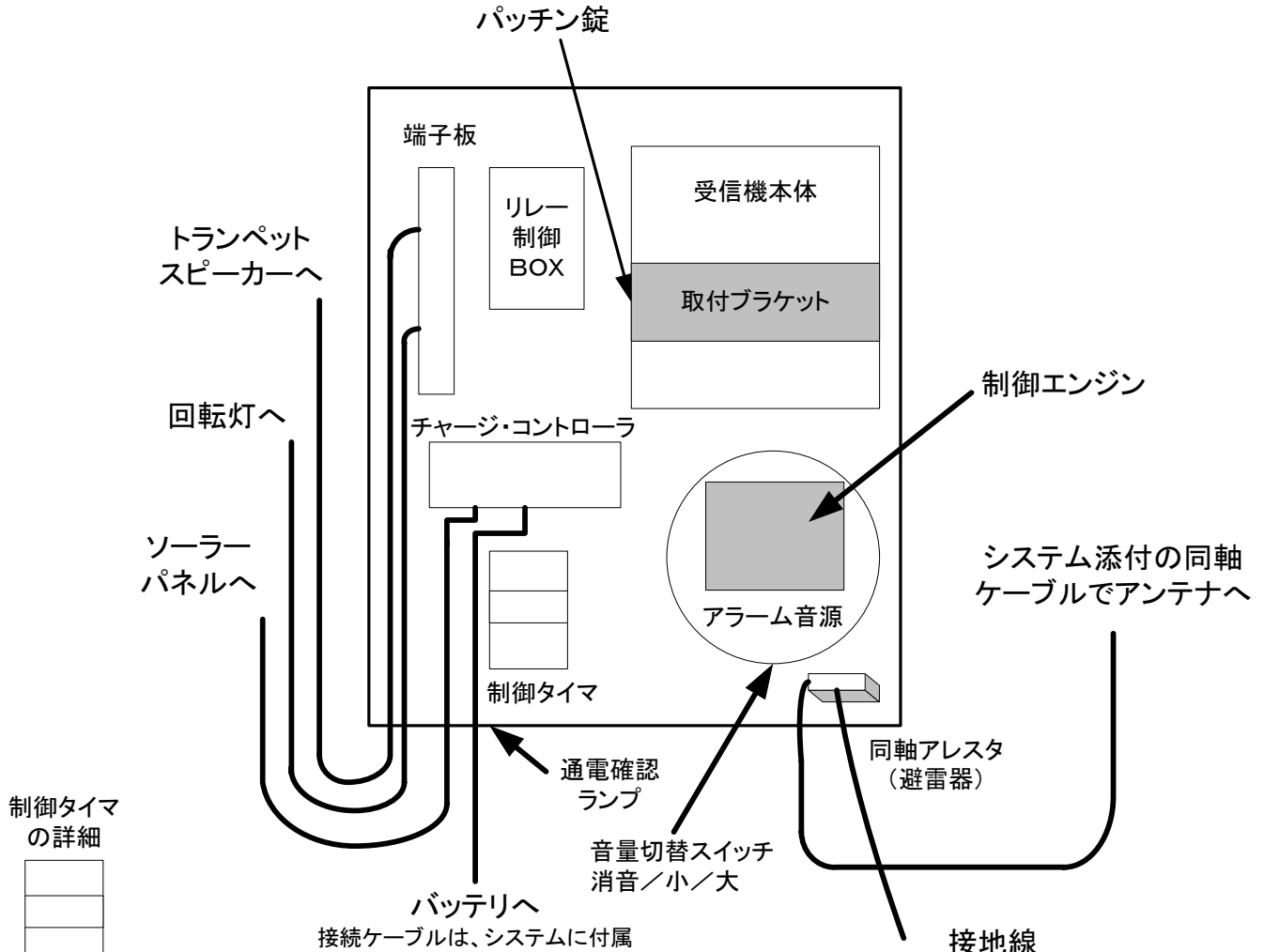
# 電気工事業者さまへ

## 設置場所の選択について

テレメトリ発信器から送信される弱い電波信号を受信して機能しますので、なるべくノイズ源から離れた場所への設置が望ましいです(なるべく受信感度を落とさたくありません)

幹線道路・あるいは生活道路沿いであれば車のノイズ(特に2サイクルエンジン)が原因の問題が生じます

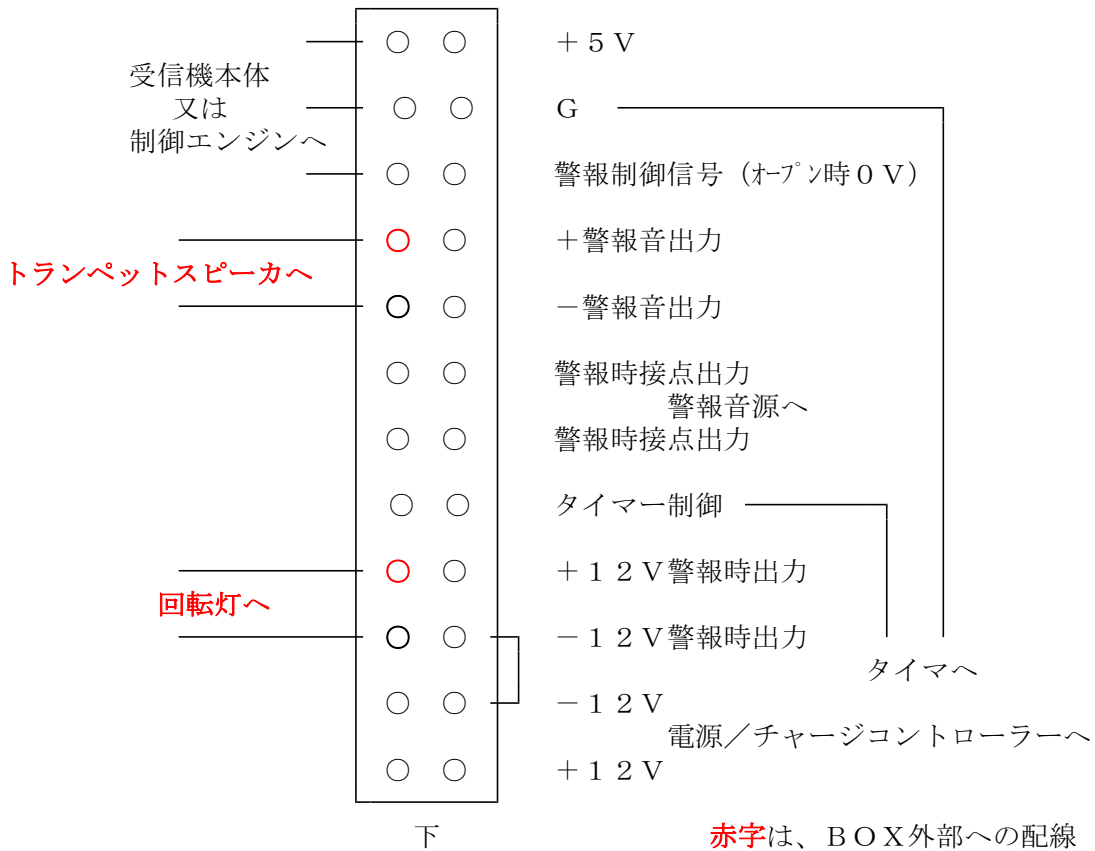
## サル接近警戒システム＝猿人善快＝独立電源モデルの配線



こちらは、アラーム制御用タイマです  
装置本体は、常時電源を入れた形で運用します  
**装置全体の電源を切り切るタイマの使い方は厳禁です。**  
このタイマで、アラーム(警報音:回転灯)の必要な時間帯を設定します  
(例:06:00~17:00)  
Mail通知などは、この警報タイマの設定には影響されません

- ・本体は、日東プラボックスOP20-45に収納、このものをバッテリーとともにOR25-69金属キャビネットに収納します  
OR25-69の支柱取付金具は、システムには付属しません(支柱によって選んで下さい)
- ・ソーラーパネル架台には、25Aサブポールを添付しており、アンテナ及び回転灯には、このサブポールに取り付けできる金具を添付します
- ・トランペットスピーカーは、BOXか支柱にお客さまのご希望になる方向に向けて取り付けます  
(ビス止め、もしくはステンレスバンド等で)
- ・アースそのものは、φ10x900mm程度のアース棒を打ち込んでいただければOKです(草苳等に留意)
- ・BOXから外に出る配線は、上記の通りです(携帯電話網を利用する場合は、アンテナが外に出ます)

## 端子板結線図



φ 3.5 の圧着端子をご使用下さい。

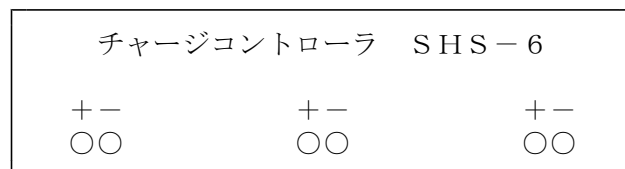
直流ですので極性の扱いには十分ご注意下さい。  
弱電 / 強電の世界の違いにより表現に違いがありますので、結線に  
際しましては、テスタなどで確認いただくことをお奨めします。

### 【例】

赤黒の場合、赤がHOT (+) 側

白黒の場合、黒がHOT (+) 側

※上記の例で、黒と黒を結線すると逆接になりますので要注意！



ソーラーパネルへ      バッテリーへ      負荷へ

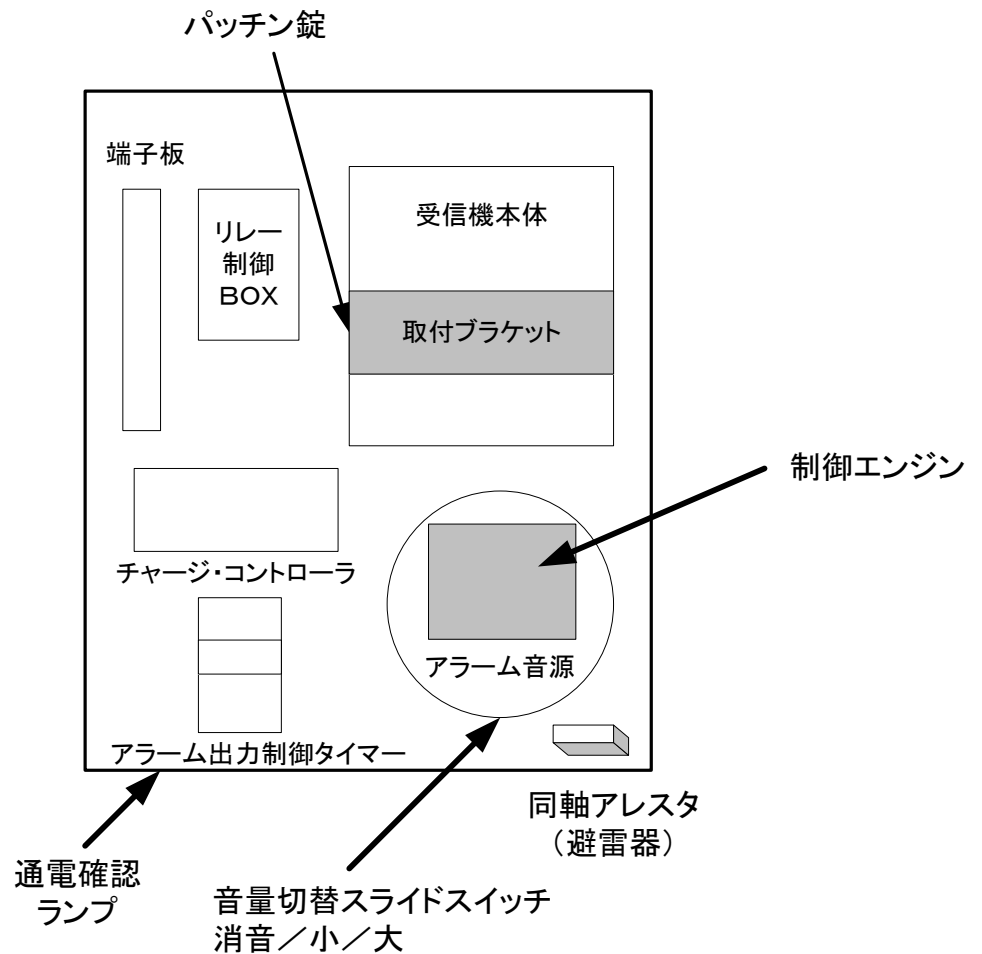
小さめのマイナスドライバでネジを締めることで端子を引っ張り上げて、中に通した配線を固定する方式です。

バッテリー接続ケーブルはシステムに添付します。(バッテリー側は圧着端子、チャージコントローラー側は半田上げ)

通電さえすれば、いきなり自動選局を開始、スタンバイ状態になるようにして出荷しております  
制御エンジンは、LinuxPCに必要なプログラム、ハードウェアを追加したもので、接続あるいは電源  
入り切りのタイミング等につきましては別紙でご確認下さい  
受信機本体の設定方法などは、取扱説明書と合わせ受信機付属の説明書をご参照下さい

装置の構成を図化したものをご用意しました。

## サル接近警戒システム＝猿人善快＝DCモデル本体

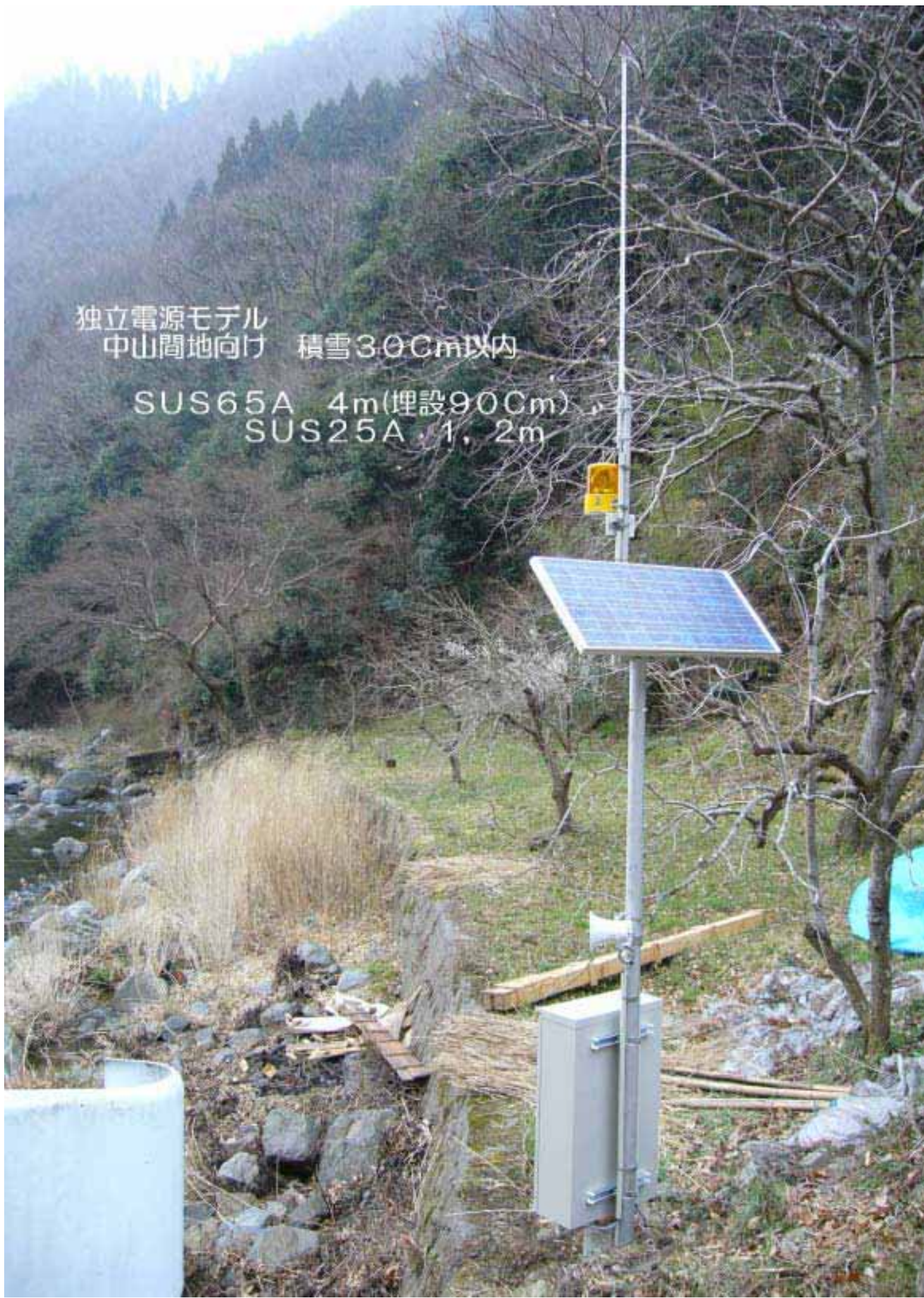


外部への接続は、

1. 受信アンテナ  
同軸ケーブル(50Ω系 システムに付属)で、同軸アレスタへ接続します(M-J)
1. ソーラーパネル  
バッテリー  
いずれも、チャージ・コントローラの指定位置に接続します  
極性には、十分お気を付け下さい(ネジ止め)
1. アース線  
同軸アレスタにアース端子がついています  
この端子を接地して下さい(900x7φアース棒でOK)
1. トランペットスピーカー  
回転灯  
端子板にあるそれぞれの指定位置に接続します  
極性がありますので注意して下さい

独立電源モデル  
中山間地向け 積雪30cm以内

SUS65A 4m(埋設90cm)  
SUS25A 1, 2m



独立電源モデル 全容  
中山間地向け(積雪30cm以内)



## 参考写真集(φ89独立電源型)



φ89鋼管柱 地上高4mの施工例

装置本体を収納する金属キャビネットは  
地上から30~40cm持ち上げています  
ソーラーパネル架台は、支柱径に関係なく共通  
(取付Uボルトはφ89/127の2種を添付)

25Aのサブポールを添付(アンテナ等取付用)

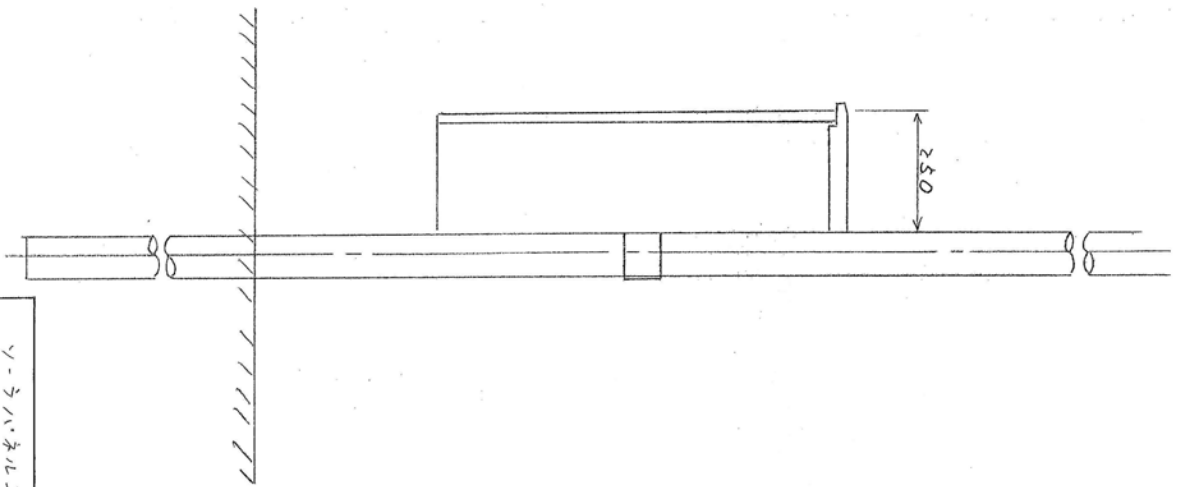
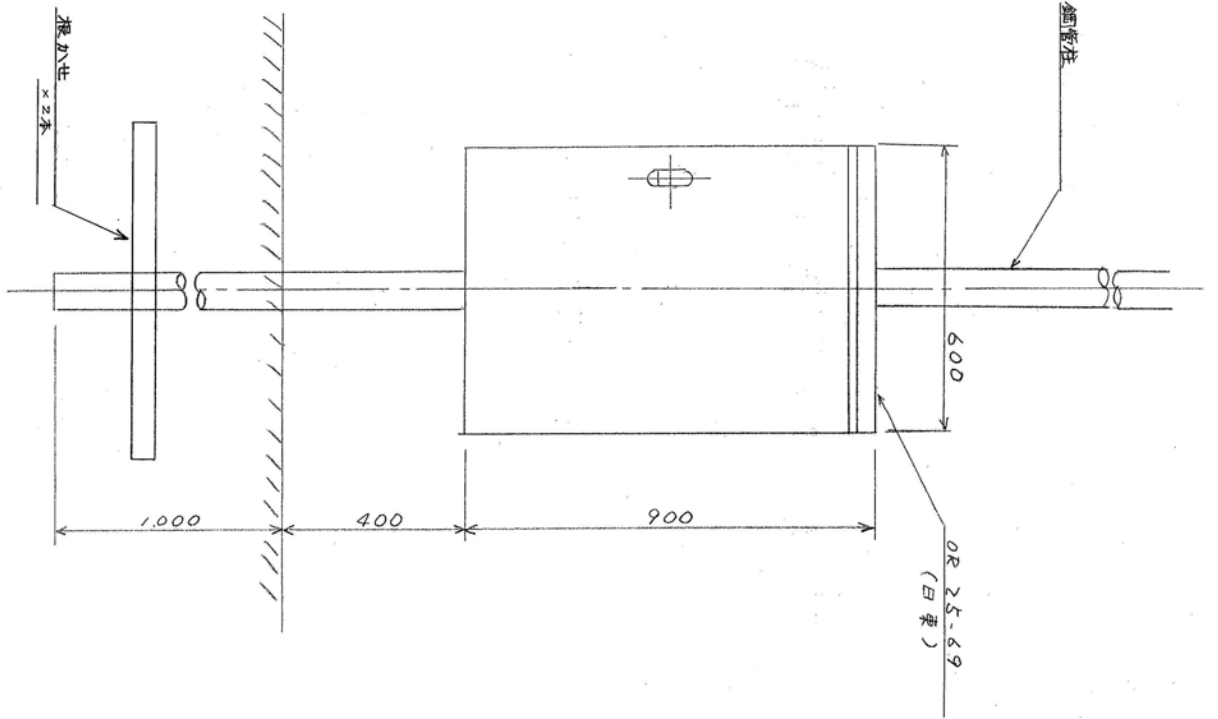


OR25-69金属キャビネットの中に、OP20-45に組み込まれた「猿人善快」を収納



キャビネットには、10年間メンテナンス・フリーのバッテリー(80Ah)2個を収納  
キャビネットの総重量は90Kg程度になります

①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			
⑮			
⑯			
⑰			
⑱			
⑲			
⑳			
㉑			
㉒			
㉓			
㉔			
㉕			
㉖			
㉗			
㉘			
㉙			
㉚			
㉛			
㉜			
㉝			
㉞			
㉟			
㊱			
㊲			
㊳			
㊴			
㊵			
㊶			
㊷			
㊸			
㊹			
㊺			
㊻			
㊼			
㊽			
㊾			
㊿			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90			
91			
92			
93			
94			
95			
96			
97			
98			
99			
100			



チーフ	スタッフ	DRAWING	DRAWING NO.
ノーマル取付 2寸 盤			

# サル接近警戒システム＝猿人善快＝ 施工についての補足／積雪30cm未満

## 1. 施工に含まれる諸材料（施工業者の方に用意いただくもの）

鋼管柱 φ89 4～5m長（地中に1m埋設、地上高3～4mにパネル）  
同上用寝かせ  
同上鋼管柱に、日東OR25-69を取り付ける金具  
アース棒（900～1000mm程度）

## 2. 配線に関わる諸材料

1.25x2 VCT

- ・ソーラーパネル ～ 装置本体間
- ・回転灯 ～ 装置本体間
- ・トランペットSP ～ 装置本体間

1.6～2.0 IV線

- ・アース棒 ～ 装置本体間

電線保護に必要なVP管、CD管および接続具

上記配線以外に、アンテナ用同軸ケーブル（5D-2V／装置側で用意）が1本、アンテナから装置本体間を結びます。

保護管類、およびトランペットSPを取り付けるステンレスバンド

## 3. 施工内容

装置重量（金属キャビネットの総重量）が約90Kg程度、ソーラーパネルおよびソーラー架台の重量が約30Kg程度ありますので、支柱径はφ89（80A）程度のもので採用、また金属キャビネットの底部を地上から積雪分+@（30～40cm程度）は持ち上げて設置することが必要です。

別紙写真のように、ブロックを2個重ねて置いておくのも「手」です。

受信アンテナ・回転灯は、ソーラーパネル架台に付属のサブポールに取り付け出来るよう金具類を添付しています。

### A. 鋼管柱の建柱

- ・ソーラーパネル架台組立／ソーラーパネル&サブポールの取付
- ・アンテナ組立／付属金具でサブポールに取付
- ・回転灯／付属金具に取付後、Uボルトでサブポールに取付
- ・トランペットSPは、ステンレスバンドで取付（固定）
- ・アース棒埋設（打ち込み）

装置接続箇所までの必要配線

### B. 装置本体の取付

OR25-69の中に、＝猿人善快＝本体、およびバッテリーを収納

- ・本体（OP20-45）は、キャビネット鉄製基板（2.3t）に縫いつけて下さい。
- ・バッテリーは、置くだけ／配線に必要な線材は装置に添付します。

配線の様子は、別紙を参考にして下さい。（本体側は、端子板／圧着端子です）

**極性のあるものにつきましては、注意をお願いします。**（直流と交流の世界では、ホット側の表現が異なるケースもありますので、テストなどで確認するなど、くれぐれも逆接をしないよう作業をお願いします。）

## 施工について

ソーラーパネル（架台）を支柱に取付て建柱するのが能率的かと思えます。



## 参考写真集(φ127独立電源型)



φ127鋼管柱による豪雪地域での施工例  
装置本体を収納する金属キャビネットは  
地上(GL)から150cm持ち上げています  
ソーラーパネル架台は、支柱径に関係なく共通  
(取付Uボルトはφ89/127の2種を添付)

25Aのサブポールをソーラー架台に添付(アンテナ等取付用)



基礎部も、地盤を見た上できちったした用意が必要です



盤の底面がGLより1500mm程度に持ち上げて  
取付、それなりに丈夫な金具を使用します



OR25-69金属キャビネットに、OP20-45  
に収納された=猿人善快=本体と、10年間メ  
ンテナンス・フリーのバッテリー(80Ah)2個を収  
納します  
キャビネットの総重量は90Kg程度になります

# サル接近警戒システム＝猿人善快＝ 施工についての補足／積雪150cm未満

## 1. 施工に含まれる諸材料（施工業者の方に用意いただくもの）

鋼管柱 φ127 5～6m長（地中に1m埋設、地上高4～5mにパネル）  
同上用寝かせ+基礎工事分  
同上鋼管柱に、日東OR25-69を取り付ける金具  
アース棒（900～1000mm程度）

## 2. 配線に関わる諸材料

1.25x2 VCT

- ・ソーラーパネル ～ 装置本体間
- ・回転灯 ～ 装置本体間
- ・トランペットSP ～ 装置本体間

1.6～2.0 IV線

- ・アース棒 ～ 装置本体間

電線保護に必要なVP管、CD管および接続具

上記配線以外に、アンテナ用同軸ケーブル（5D-2V／装置側で用意）が1本、アンテナから装置本体間を結びます。

保護管類、およびトランペットSPを取り付けるステンレスバンド

## 3. 施工内容

装置重量（金属キャビネットの総重量）が約90Kg程度、ソーラーパネルおよびソーラー架台の重量が約30Kg程度ありますので、支柱径はφ127程度のもので採用、また金属キャビネットの底部を地上から積雪分+@（150cm以上）は持ち上げて設置することが必要です。

従いまして、**基礎工事は地盤に合わせしっかりとしたものをお願いします。**

受信アンテナ・回転灯は、ソーラーパネル架台に付属のサブポールに取り付け出来るよう金具類を添付しています。

### A. 鋼管柱の建柱

- ・ソーラーパネル架台組立／ソーラーパネル&サブポールの取付
- ・アンテナ組立／付属金具でサブポールに取付
- ・回転灯／付属金具に取付後、Uボルトでサブポールに取付
- ・トランペットSPは、ステンレスバンドで取付（固定）
- ・アース棒埋設（打ち込み）

装置接続箇所までの必要配線

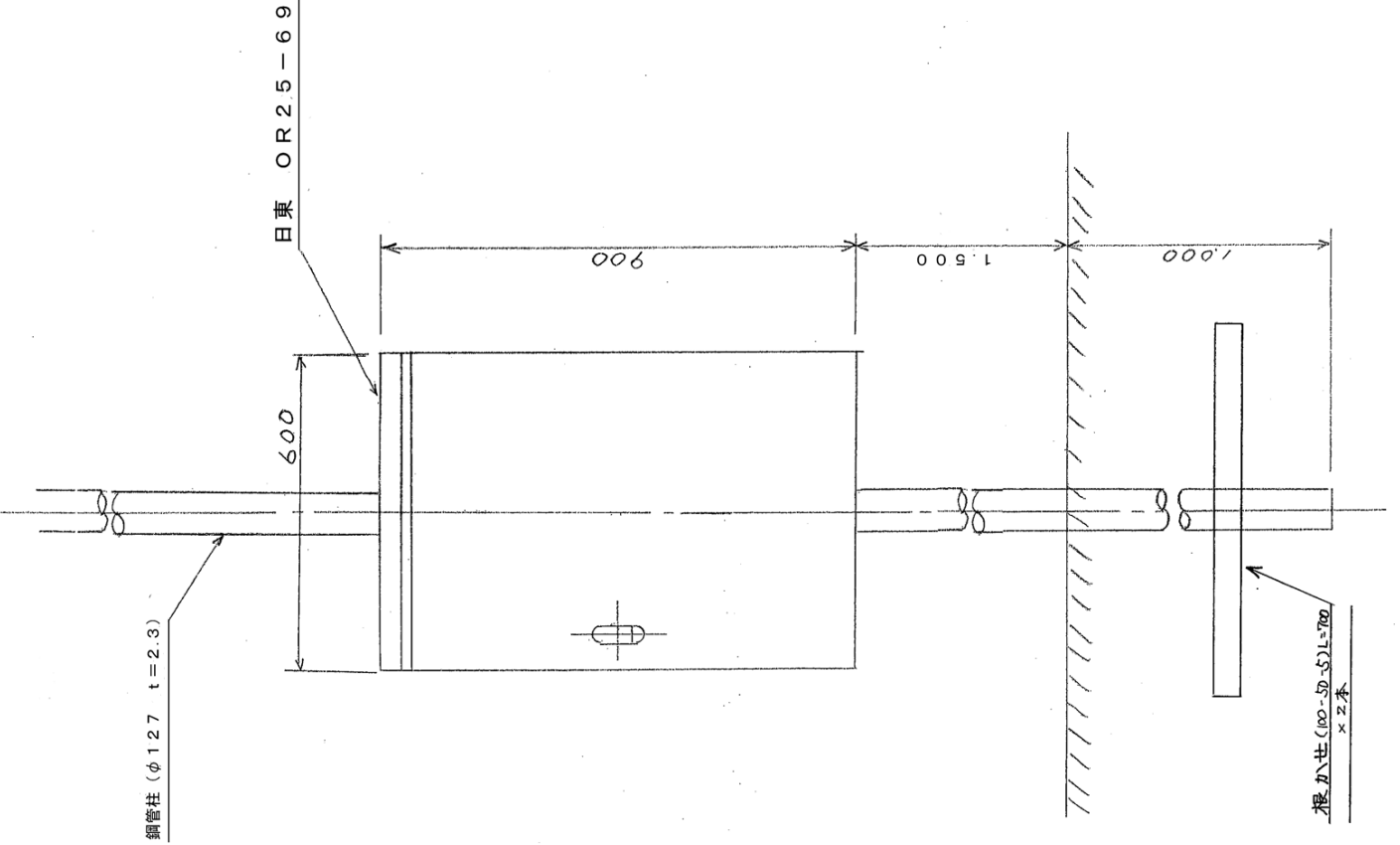
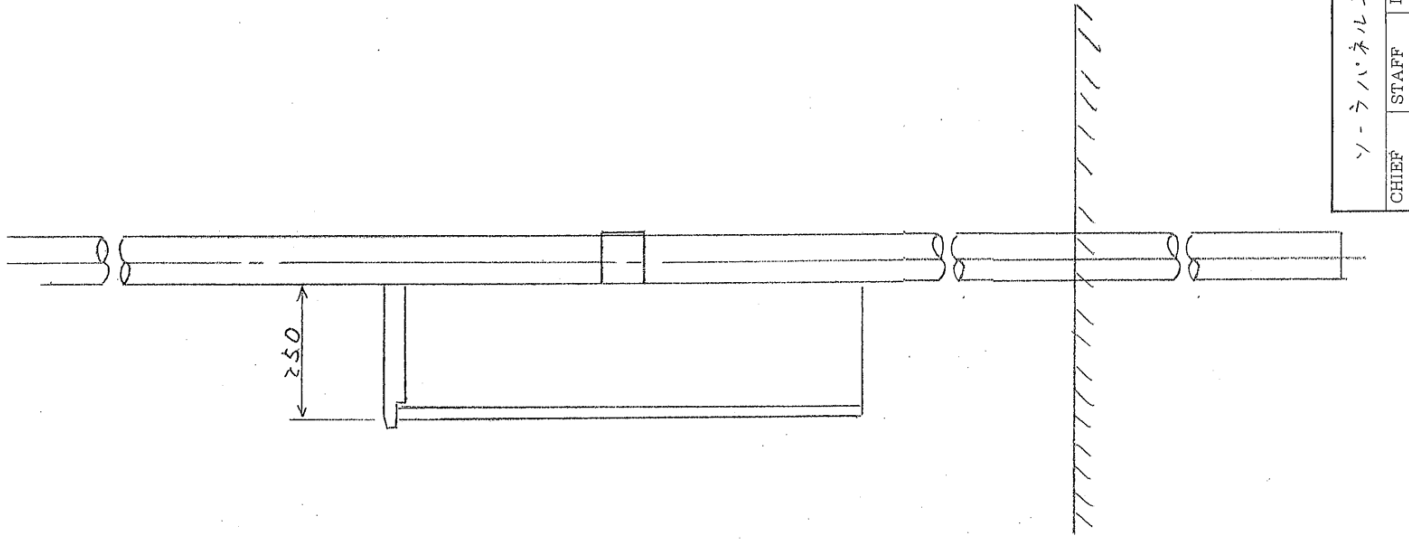
### B. 装置本体の取付

OR25-69の中に、＝猿人善快＝本体、およびバッテリーを収納

- ・本体（OP20-45）は、キャビネット鉄製基板（2.3t）に縫いつけて下さい。
- ・バッテリーは、置くだけ／配線に必要な線材は装置に添付します。

配線の様子は、別紙を参考にして下さい。（本体側は、端子板／圧着端子です）

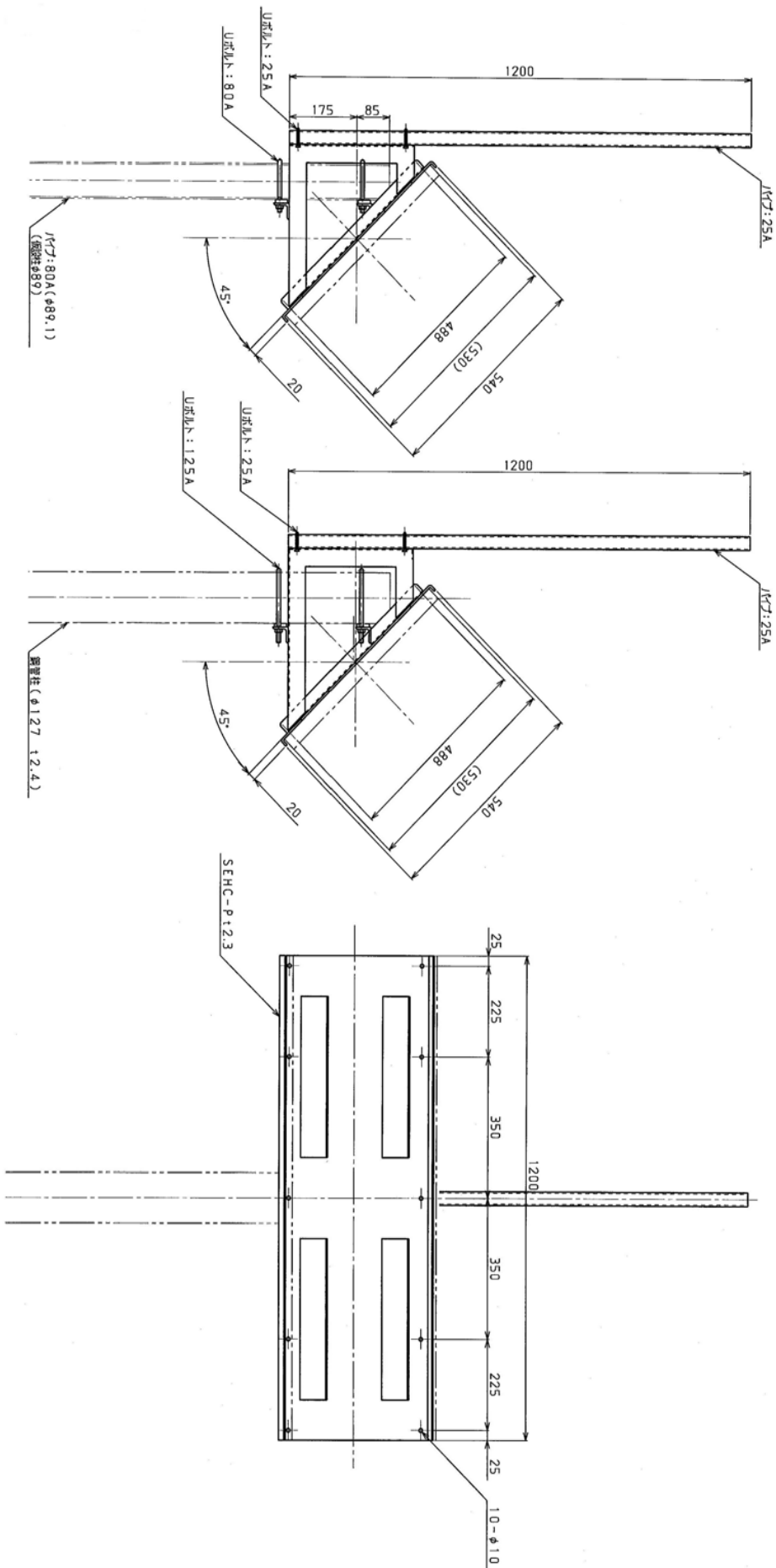
**極性のあるものにつきましては、注意をお願いします。**（直流と交流の世界では、ホット側の表現が異なるケースもありますので、テストなどで確認するなど、くれぐれも逆接をしないよう作業をお願いします。）



ソノハネル取付支柱盤			
CHIEF	STAFF	DRAWING	DRAWING NO.

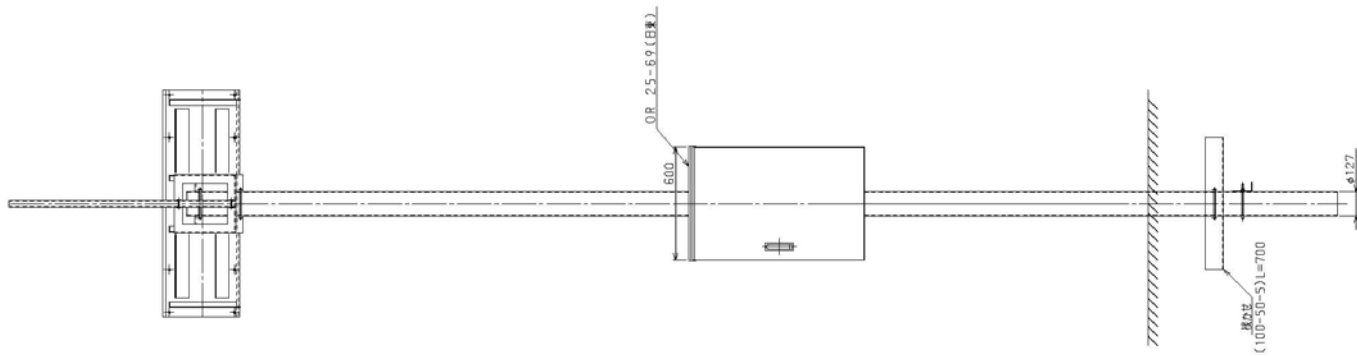
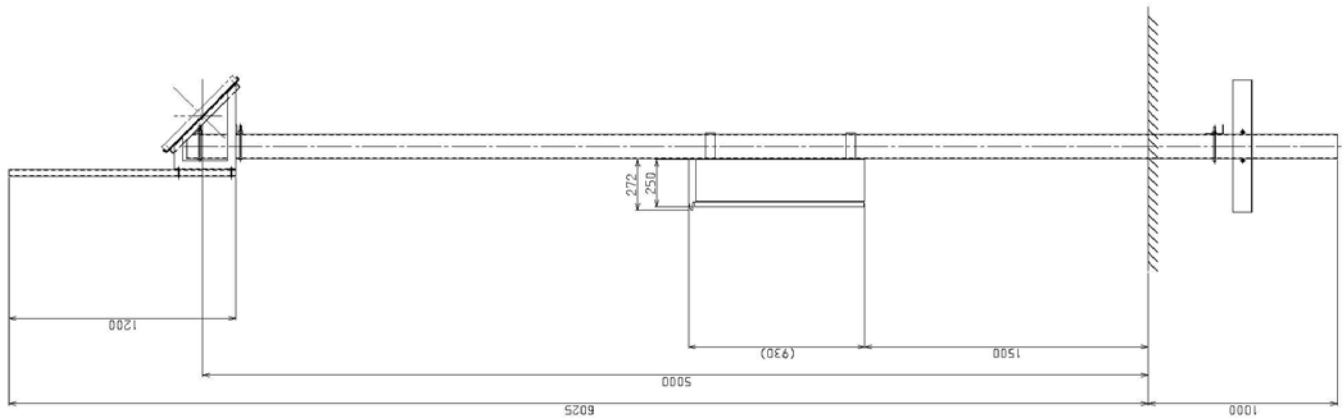
標準寸法表		種類		(中級)		(JIS B 0405)	
標準寸法の区分	種類	中級	標準寸法の区分	種類	中級	標準寸法の区分	種類
0.5以下	3桁	±0.05	±0.1	1200以下	4桁	±0.2	±0.5
3以下	6桁	±0.05	±0.1	400以下	10桁	±0.3	±0.8
6以下	3桁	±0.1	±0.2	1000以下	2桁	±0.5	±1.2
30以下	12桁	±0.15	±0.3	2000以下	4桁	±0.5	±2.0

第3巻



指示ナキ角部八面取リコト

SS400	樹体塗装 SY771(全ツヤ)	25 (25)	1	1:1.0
材質	処理	仕上	製作数	尺渡
ソート/ネリ取付台	組立図			
CHIEF	STAFF	DRAWING	DRAWING NO.	8A5306-M1



相沢子牛商部八米組取リノコト

SS400	5Y7/1(実寸)	▽(▽)	1	1:20
材質	地盤	仕上	製作数	尺取
全体図				
CHIEF	STAFF	DRAWING	DRAWING NO.	